

富士山

2024.3.4

地図を見る機会が減った。車を運転していても、地図を見ない。車にナビはついていますが、スマホのナビを使っている。こちらの方が、使いやすく優れている。

日本地図を見てみる。ほとんどが茶色である。山国である。わずかな緑色の部分に、人が密集していることがよくわかる。いつも吾妻山と安達太良山を眺めながら生活している。山は、毎日、違う顔を見せる。一日たりとも、同じ顔はない。両峰ともに、目の前に見えるが、すぐ近くというほどではない。南会津と奥会津では、山は目の前にあった。すぐそばにあった。山に挟まれて生活していた。季節により、山の風景が変わっていくのが、よくわかった。

車で、東北自動車道をひたすら南下する。すると、一気に視界が開ける。山がない。関東平野である。日本地図の中で、最も緑色が多いエリアである。山に囲まれていない。そのことに、いつも違和感を感じる。その一方で、開放的な気分にもなれる。

昨年12月だった。天気がよく、空気が澄んだ日だった。いつものように、関東平野に入り、視界が一気に広がった。すると、右側にきれいな山が見えた。富士山だ。間違いなし。何度も、同じルートを走っているが、こんなにきれいに富士山が見えたのは初めてだった。なぜ、富士山を見つけると、あんなにうれしいのだろうか。その後も、ずっと富士山を追い続けた。見えなくなったら、また現れる。だんだんと大きく見えてくる。

富士山は、秀麗な山である。東海道新幹線から見える富士山、江ノ島から見える富士山、甲府市から見える富士山、どれも違う。人を感動させるものをもった山である。スイスに行く。アルプスの山々が見える。モンブランやマッターホルンなど、それはそれは見事である。アルプスの山々の方が、雄大でスケールが大きい。富士山よりも標高が高い。だが、富士山がもつ魅力とは違う。

富士山は、雄大とは言えない。標高が日本一とはいえ、世界的に見れば、さほどではない。富士山は、3776mでよい。特別、高くなくてもよい。あれ以上、大きくなくてもよい。富士山の美しさは、富士山自身の火山としてのバランス、まわりとのバランスからきているように思う。バランスは美しさにとって重要な要素の一つである。富士山は、美しい山である。

今までの富士山は、いつも見ているだけだった。いつか登ってみたい。日本の最高点に立ってみたい。そう思うときがある。だが、富士山は、見るための山だという意識もある。静岡側、山梨側をはじめ、沼や湖とのセットなど、いくつもの富士山があるだろう。富士百景というところだろうか。人を魅了してやまない山、それが富士山である。これからも、富士山を追い続けたい。